

<校訓>

高志共生

大庄中通信

大庄中学校
H25年度第23号
(H26.2.21・金)

公立推薦・特色選抜・多部制 入試結果

今年は、2月4日の「立春」も、名ばかりの寒い冬でした。しかし、ようやく、陽射しに春の薫りを感じる季節がやってきました。中学3年生の2月は、受験（公立は受検となります）の季節です。

例年、入試の日を狙ったかのように、その日は、雪が降ったり寒くなったりすることが多いようです。今年も、2月14日の公立推薦・特色・多部制入試の日は朝からの大雪でした。2月10日と11日の私学入試の日もとても寒かったですし、高校生などが受ける1月中旬の大学センター入試の日も寒かったように思います。お天道様は、受験生に試練を与えるのがお好きなのかな？とも思っていました。

入試の日には、3年生の教員は不測の事態に備えて早朝から学校で待機をしますが、今年は、悪天候にもかかわらず、高校から「〇〇さんが来ていませんが…」といった連絡はありませんでした。受検した生徒達も、事前に指示されていた以上に、交通機関の乱れなどに巻き込まれないために早めに出かけるようにしたようです。「7時10分頃に〇〇くんと駅で会いました」という話をしている教員もいました。やはり、何事も準備と備えが大切です。

公立推薦は91%が合格

今年の公立推薦入試は、本校から34名が受検し、31名が合格（91%の合格率）、公立特色選抜入試は23名が受検して13名が合格（56.5%の合格率）、多部制は6名が受検して4名が合格（67%の合格率）という結果でした。高校（学科）ごとの入試結果（受検校と合格者）は次の通りです。

公立推薦

尼崎稲園（単位）1 県西宮（単位）1 県芦屋（単位）4 市西宮（カローラサンプラザ）1
尼崎小田（サインズサチ）1 尼崎小田（国際探求）2 県国際1 宝塚北（演劇）1
武庫荘総7 県尼崎（教育と絆）6 市尼崎（体育）1 県有馬（人と自然）1
県尼崎工2（電気・電子） 尼崎双星（電気情報）1 尼崎双星（商業学）1

公立特色選抜

尼崎北2 市尼崎1 尼崎双星1 尼崎小田1 尼崎西8

多部制

西宮香風2（2部1・3部1） 阪神昆陽2（2部1・3部1）

私学入試結果

私学入試は全員合格

私学入試は、専願と併願を合わせて、本校から105名が受検し、今のところ、全員が合格しています。他府県の私学の受験結果も合わせて、お



知らせします（2月21日現在）。

須磨学園（併2） 関西学院（専2） 大阪階星学園（併1） 履正社（専1） 報徳学園（専1併1）
仁川学院（併11） 大阪電通大（併1） 大阪（併25） 大商学園（併1） 芦屋学園（専1併2）
大成学院大（併2） 星翔（併2） 昇陽（併1） 興國（併1） 神戸第一（専1併2）
園田学園（専1併21） 夙川学院（専1） 好文学園女子（専2併19）
天理教校学園（専1） 寒川（専1） 石見智翠館（専1）

でも、学年の3分の2は進路未決定

ここまでの、私学を専願で受験して合格した人、公立推薦・特色・多部制に合格した人を合わせると62名となります。これは、160名の学年全体の約39%ですから、言い換えれば、学年の3分の2近くの方は、卒業式の翌日に行われる3月12日（水）の公立学力検査が正念場です。5教科のテストです。進路の決まった人達は「立つ鳥跡を濁さず」の精神で、あと1ヶ月猛勉強しなければいけない仲間達が、いい雰囲気での学習に取り組めるように心がけてもらいたいと思っています。

公立推薦・特色選抜の難しさ

今年の公立推薦入試は、県下全体の平均倍率が1.4倍、特色選抜も県下全体の倍率が1.45倍という『3人が受検したら1人が不合格』になる難関の入試でした。また、多部制入試も2倍を超える倍率の部がありました。

もちろん、学校や学科によって倍率は違います。中には、受検者が募集定員以下で、受検した全員が合格することもありますから、中学校の受検者の何%が合格したというだけで良し悪しを判断することはできません。しかし、本校は、昨年度も公立推薦については、受検者の88%が合格してくれましたし、一昨年は81%の生徒が合格しました。この3年間の状況から言えますのは、受検した一人一人の生徒がしっかり準備をしてきたことは間違いありませんが、学校が、本人の志望動機、興味・関心・適性・意欲などを踏まえ、蓄積してきた過去の受検データやその年度の動向に関して調査等で把握しているデータに基づいて推薦の可否を決定し指導しているということをご理解いただければ、公立の推薦については、この3年間と同じように合格できる可能性が高いということです。

ただ、公立推薦・特色選抜の合否判定の詳しい方法や内容は、中学校側は教えてもらえません。「兵庫県公立高等学校入学者選抜要綱」によりますと、単位制・専門学科・総合学科・コース・特色選抜ともに“総合して合否の判定を行う”と記されているだけで、例えば、小論文や面接が何点満点なのか、実技検査が何点満点なのか、またそれらが調査書や推薦書と合わせた全体の何%なのか…要綱には記載がありませんし、高校側が教員向けの説明会で教えてくれることもありません。ですから、中学校は、できる限りの集めたデータに基づいて合格の可能性を探り、推薦の可否を決定するという作業を行っているということも、お知りおきください。

（文責：校長 福井 隆夫）

